

ヒゼンクラゲとエチゼンクラゲ（刺胞動物門，鉢虫綱）の
三重県と神奈川県沿岸での漁網による捕獲
**CAPTURE OF *ROPILEMA HISPIDUM* AND
NEMOPILEMA NOMURAI (CNIDARIA, SCYPHOZOA) BY FISHING NET
IN MIE AND KANAGAWA PREFECTURES, JAPAN**

By

岩田昭人¹・山田和彦²・久保田 信^{3*}
Akihito IWATA¹, Kazuhiko YAMADA² and Shin KUBOTA^{3*}

概要

Abstract

We reported here two medusa species, *Ropilema hispidum* and *Nemopilema nomurai* (Cnidaria, Scyphozoa), caught in fishing nets in Mie and Kanagawa Prefectures, Japan facing the Pacific coasts of Honshu affected by Kuroshio Current in 2005 and 2009 as very rare cases.

はじめに

Introduction

ヒゼンクラゲ *Ropilema hispidum* とエチゼンクラゲ *Nemopilema nomurai* の我が国での分布・分散は限定されており、前者は有明海以南にみられ、後者は日本海に面した地域に年によって出現し、時に日本海より津軽海峡を抜けて太平洋岸の関東地方以北沿岸まで海流に乗って漂流する（安田 2007; 三宅・Lindsay 2013）。こういった状況の中で近年、神奈川県と三重県の沿岸に設置された定置網でこれら 2 種の混獲があったので、稀少例として記録する。

材料と方法

Materials and Methods

-
1. 〒519-3625 三重県尾鷲市向井 84-3 84-3 Mukai, Owase, Mie, 519-3625 Japan
 2. 相模湾海洋生物研究会 Sagami Bay Marine Biological Reserch Club, Japan
 3. 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, 459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
* e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

著者の岩田と山田は、それぞれ三重県尾鷲市と紀北町の沿岸、神奈川県三浦市の沿岸（みうら漁業協同組合三崎沿岸販売所、通称、三崎魚市場へ相模湾奥の茅ヶ崎、三浦市の相模湾側の三戸と諸磯、そして三浦半島南端の東京湾よりの毘沙門より水揚げ）に設置された定置網にかかった様々な動物分類群を日々観察している。上記二名の長年の観察中、ほとんど遭遇することのない大型クラゲ2種の混獲例が特定の年に両海域であったので、水揚げされたクラゲを写真撮影した。

結果と考察

Results and Discussion

岩田により三重県沿岸で2005年にヒゼンクラゲとエチゼンクラゲが定置網にかかったことがわかった。ヒゼンクラゲは、ただ1個体が2005年8月21日に三重県紀北町白浦で（図版1A）、エチゼンクラゲは同年9月30日に三重県尾鷲市の柱掛けの定置網に1個体が入網した（図版1B）。

山田により神奈川県沿岸でエチゼンクラゲが2005年と2009年に入網したことがわかった。エチゼンクラゲの入網は上記の4箇所内、毘沙門定置網のみであり、2005年9月に1回、2009年11月に3回見られた（図版1C）。しかし、市場での山田の聞き取りによると、これ以外の日にも混獲があったとのことだったが、その詳細は不明である。なお、定置網をあげる船頭の談話によると、「2005年はエチゼンクラゲがかかった回数も個体数も多くなかったが、2009年には11月の2週間ほどにわたって多数の個体が網に入り、揚網がたいへんだった」とのことである。

2005年は日本の全国の沿岸でエチゼンクラゲが記録された非常に稀な年であり、和歌山県白浜町でも記録された（久保田ほか 2006; 安田 2007; 水産総合研究センター日本海区水産研究所 2005）。今回の報告のように、この年には上記の2県でもめったにない記録がなされていた。いずれの箇所でも大型で、よく成長・成熟しているものと推察される。現に久保田ほか（2006）によると、和歌山県白浜町での採取された1個体は成熟雄であった。エチゼンクラゲは中国が原産地であり、我が国では主として日本海に面した地域に、特に今世紀になって対馬暖流に乗ってしばしば大量出現している（安田 2007; 水産総合研究センター日本海区水産研究所 2005 など）。

一方、ヒゼンクラゲは日本ではその名（肥前）の通り、最近でも有明海に頻繁に産し、その他の海域での出現記録はほとんどなされていない。しかし、世界的にみると東南アジアに広く分布している種である（三宅・Lindsay 2013）。今回記録されたヒゼンクラゲとエチゼンクラゲは、海外生まれの個体が状況によっては黒潮に乗り、その影響を受けている本州太平洋沿岸地域へ漂流移動した稀なケースであると推察される。

引用文献

References

- 久保田 信・河村真理子・上野俊士郎, 2006. エチゼンクラゲ（刺胞動物門、鉢虫綱、根口クラゲ目）の和歌山県田辺湾への初出現. 南紀生物, 48(1): 57-59.
- 水産総合研究センター日本海区水産研究所, 2005. 大型クラゲ（*Nemopilema nomurai*）関連情報（2005 年度）http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/Kurage/kurage_hp21/2005.html.
- 三宅裕志・Dhugal Lindsay, 2013. 最新クラゲ図鑑. 110 種のクラゲの不思議な生態. 127 pp., 誠文堂新光社, 東京.
- 安田 徹, 2007. エチゼンクラゲとミズクラゲ —その正体と対策—. 172 pp., 成山堂書店, 東京.

図版 1 の説明
Explanation of plate 1

図 A. 三重県紀北町白浦で 2005 年 8 月に定置網にかかったヒゼンクラゲ

Figure A. *Ropilema hispidum* caught in the fishing net at Shiroura, Kihoku-cho, Mie Prefecture, Japan in August, 2005.

図 B. 三重県尾鷲市で 2005 年 9 月に定置網にかかったエチゼンクラゲ

Figure B. *Nemopilema nomurai* caught in the fishing net at Owase-city, Mie Prefecture, Japan in September, 2005.

図 C. 神奈川県三浦市で 2005 年 11 月に定置網にかかったエチゼンクラゲ

Figure C. *Nemopilema nomurai* caught in the fishing net at Miura-city, Kanagawa Prefecture, Japan in November, 2005.

